

福山市 常友 計宏
寮長に息子救われ感謝です
壮行式エールを送る生徒たち
旧友が働くパン屋おもてなし

岩出市 高良 侑未
一人旅やっぱ寂しい時がある
すき焼は二日おでんは三日食べる
良い人なのに友達になられへん

福山市 石田 絹代
りんご狩り食べられなくてお買いあげ
シルバーカーあなたが頼りサア出かけよう
この一年暑さと戦いのみのころ

竹原市 岩本 笑子
カワセミを見たという娘は鳥の声
誰彼と心で話す夜明け前
目覚めたる今日を又とない日とす

竹原市 金沢 節生
雪よ嵐よ川柳はまだ辞めぬ
ゲームコロコロ明日はどこへ行く
一人より二人収穫の季節

竹原市 元吉 慶子
不安定歳相応に揺れ動く
体操で手足を伸ばすダイケアー
毎日が許してもらおう事ばかり
休みなくラジオ放送有るを知る
寝転んでラジオは便利子守歌

竹原市 今井 初音
早口言葉脳トレでおもしろく
唱歌教室習った頃がよみがえる
もったいないもったいないとまた仕舞う
ベッドの弟に柿の絵手紙を送る
赤トンボすすきもみじと秋探す

竹原市 向原 道子
今年もまた旅する蝶に会えました
温暖化日本の誇り四季壊す
口喧嘩生きて証夫婦です
悔しいね体の動き鈍くなる
庭畑手間かけた分大豊作

竹原市 河崎 厚子
午前二時目覚ましのよう猫が泣く
ニンゲンに喝御堂筋の「ど根性スイカ」
脳トレは努力できますインドア派
立冬が来るといいうのに夏日が続く
嫁入りの三面鏡も老いました

竹原市 古谷 節夫
台本は無いが毎日腕磨く
退職の日からオイシイ酒を酌む
晩酌で自分を褒める癖がつき
アリガトウ地酒で流す今日の汗
飢えの日もあつた昭和の少年期
平和なら自由に詠める川柳を

竹原市 田中 敬子
育児放棄されたと聞いて飼う子猫
可愛いね隠れた積りの猫の尾は
遅い秋紅葉気になる三景園
薄記憶の母恋う弟の白い骨
旅立ちを見送る私の無力さよ

竹原市 菅 弘子
還暦傘寿合わせて祝う四世代
十二人並ぶ笑顔をハイパチリ
感謝感謝の秋は金色に満つ
路郎句碑息子夫婦と千光寺
コロナインフル接種を終えて挑む冬

竹原市 古田 比呂子
雨降らず三度播いても尚生えず
今二人思い起こせば大家族
五十回忌姑十年の生涯の師
久々に逢えて長々花談義
孫や娘が時々喝を入りに来る

竹原市 若年 幸子
ひまわりの迷路抜けると秋だった
引き出しを整理秋の陽の円い
あの白い雲まで届け縄梯子
畑物を届けてくれる兄がいる
地獄にも救いはあるか蜘蛛の糸
今日の運悪そうじつとしておこう

竹原市 土井 輝恵
ちよい呆けと思えば腹も立たないが
良いウンチしたねと褒める離乳食
昔取った杵柄お祭りの支度
マッサンの「昴人生」ふつつと
神殿の掃除神様近づきぬ

竹原市 松田 栄香
再会に至福の時間いい笑顔
夢あれば明日へ生きてゆく勇氣
もう少し歩こう秋の空高い
元気ですか声掛け合って万歩計
医者通い隠して友と食事会

竹原市 山本 京子
撫でて行く冬色の風海光る
鶺鴒かかりグラデーシヨンの瀬戸の島
玉ねぎの苗植え明日の雨を待つ
挨拶に来たのかジョウビタキが二羽
柿の実が紅い今年は表年

竹原市 若年 幸子
三年振り祭り太鼓へ町はずむ
大銀杏苦難の樹肌八百年
野菜市今夜のサラダよく喋る
体操教室口の運動しつかりと
紅葉狩り亡夫とカメラ其処ここに
森林浴友とモミジとお喋りと

人恋し秋の夜を唯一人
笑つてる亡母の夢見て目が覚める
テレビで見る紅葉だけ美しい
四人目の曾孫誕生男の子
子守りした孫が皆んな親になり

竹原市 楠 貞子
栄谷 白狐
竹原市
元みかん農家で袋のミカン買う
母さんがあの部屋にいたあの施設
ひとり旅そろそろだなと知るバイク
それなりに友も暮らしている一人
竹原市
新潟 史子
天気予報キミは晴れたり曇ったり
せつかなあなた今宵はバラードだ
竹原市
江島 千枝
ママじやなく洗濯機を応援する娘

ジュニアの部

御菌宇小三年 和泉 沙 弥
新米はそのまま食べるとおいしいよ
赤黄色はっぱがきれい帰り道
父さんのなつとうぎらいなおしたい
忠海学園二年 江島 央
トマトが生きているところころがった

おおのり子ども園青組 えしますず
サントさんほかのひもおしごとしているの
おにがくるにががいがいちばんきらい
家族一丸カーブ預金にある矜持
竹原市 小島 蘭 幸

会計だより (令和五年十一月十六日)

寄付・寄贈 元吉慶子 吉永団風
会費

令和六年前期まで 古田 清
令和六年後期まで 土居 敏一 常友 計宏
古田比呂子 和泉 歩美 楠 貞子
國兼千代美 木島 泰子

いつもご協力いただきありがとうございます。
年賀広告の募集を致しますので、よろしくお願ひいた
します。

会計 古田 比呂子

年賀広告募集

※一ページ三段十行(三十口) 一口二千元
※募集締切日十二月十五日

令和五年十一月十一日(土)

第71回竹原市総合文化祭参加十一月句会

於：竹原市人権センター

出席者 笑子 輝恵 蘭幸 京子 慶子 比呂子
見学者 洋子 雄三 泰子
投句者 栄香 弘子 夢香 敬子 団風 澄恵
和子 宣之 白狐 未希 穂美 寿子 日出夫
千代美 節夫 節生
月間賞 古田 比呂子
お誕生日おめでとーございます(十一月生まれの方)
上村夢香 酒井日出夫 和泉歩美

宿題「ラジオ」 山本京子選

毎朝のラジオ体操した昭和
深夜便ばやし川柳夢うつつ
口ずさむステキな声と深夜便

節夫 夢香 未希

妻と共にラジオ体操五分間

朝いちでラジオと川柳マイタイム
コーヒーと深夜放送聞く私
入院してもラジオは離さない
渋滞に情報求めるカーラジオ
見ず知らずですがラジオの声に惚れ
鯉キチの父ラジオにかじりつき
家中でラジオ囲んでいた茶の間
急がねば今日は「君の名は」聴く日です
まくら元オールナイトニッポン聞いていた
終戦日ラジオで聞いた昭和の日
ラジオのニュース聞きながら朝散歩
ラジオから花菱アチャコ秋の虹
連ドラのラジオへかじりついたもの
ドライブは耳にラジオと目に景色

佳作

歟振う菜園の友ラジオです
通勤の元気をもらうカーラジオ
受験時代ラジオが友で乗り越えた
テレビつけラジオも鳴らしカーブ戦
深夜放送青春の頃昂聞く

人位

ラジオ・カセに合せばあちゃんフラダンス
ラジオから懐メロ窓に秋の陽よ

天位
テレビよりラジオが好きになる机
軸吟
故郷の訛りだ今日ののど自慢

宿題「体操」 岩本笑子選

新体操リボンに合わせ舞う肢体
体操が苦手であとは全部優
音楽が鳴れば体が動き出す
往復を車でジムへ汗かきに
テレビ体操椅子で努力の亡母思う
準備体操硬い身体に鞭を打つ
手を上に出来ないんです五十肩
体操とお喋りスズメ元気なり
手も足も老人体操見て笑う
体操をがんばるわけはティータイム
スクワット一日十回決めてはいるが
準備体操だけで疲れている齢

和子 輝恵 輝恵 栄香 慶子 慶子 京子 弘子 節生 比呂子 比呂子 蘭幸 蘭幸 敬子 敬子 未希

その気になればどこでも体操出来るけど
人位
耳慣れたラジオ体操良くそろう
地位
組体操のてっぺんで掴む空

宿題「揺れる」 小島蘭幸選

施設では心が揺れる事ばかり
我が庭へようこそ蝶々揺れる花
廃校のブランコ風を待っている
ダイエツト体重計は揺れもせず
親友の逝去に揺れる我八十路
子や孫に小さな財布揺さぶられ
星空を亡父と肩組み千鳥足
灯台の展望階だ足揺れる
コスモスもススキも揺れる秋が好き
帰りたい施設の義母は揺れ動く
一歳を揺らし揺らして眠らせる
ブランコと揺れる私は誰でしょう

穂美 節生 和子 弘子 節生 未希 夢香 白狐 宣之 団風 弘子 京子 慶子 穂美 千代美 笑子

佳作

勝手にしろと揺れている父の背
恋心ゆらゆらゆらり丸木橋
昨日Tシャツ今日防寒着揺れる秋
貸しポート恋のオールはよく揺れた
揺れている心隠しているマスク
人が位
心が揺れる通販という麻薬
地位
プロポーズへ一度は揺れた人でした
天位
やじろべえだった亡夫と揺れていた
軸吟
揺れながら泣いた揺れながら起きた

和子 夢香 輝恵 白狐 栄香 敬子 敬子 寿子 比呂子

特別課題「胸」

三原市 吉永団風選

胸に火を点して消えた片思い
恋の病レントゲンではスルーする
胸痛む戦禍に崩れた家に入
少年の胸に愛が届いて開く窓
胸の内互いに語る友は逝き

蘭幸 夢香 京子 慶子 宣之

胸借りたご恩土俵で返します
胸元にそつとあしらう季節感
佳作
早朝の悪夢に覚える胸騒ぎ
廃絶を祈るドームのあばら骨
胸に手を当てると母の声がする
美バストをキープ努力の熟女たち
正念場八十路胸突き八丁目
人が位
胸襟を開いて粛々と生きる
地位
ちっぼけな夫に度胸の妻がいる
天位
三人の子に吸われたや母の胸
軸吟
過去あまた誰にも言えぬ胸の内

白狐 澄恵 澄恵 敬子 敬子 蘭幸 弘子 道子 蘭幸 蘭幸 白狐 穂美

中央専門誌「月刊川柳塔」の購読をお薦めします。

定価 一冊 八〇〇円(送料一〇〇円)
半年分 五〇〇〇円(送料共)
一年分 九八〇〇円(送料共)